

# 高津支部研究だより

2023年 第2号

## 第2回高津支部授業研究会

11月15日(水)に梶ヶ谷小学校にて第2回高津支部授業研究会が行われました。ご多用の中、多くの方々にご参加していただきました。

研究協議では、多くの方から意見や感想をいただき、活発な意見交流ができました。話題になったことや意見・感想をまとめました。

### 《4年生 器械運動 「跳び箱運動」》 授業者 尾崎 美歩先生

#### □教師のねらいと実態

- ・ 易しい運動から取り組むことで、楽しみながら技能を身に付けられる方法。
- ・ 跳ぶ姿を客観的に見ることができる GIGA 端末「タイムシフトカメラ」によって友達同士での見合いの充実。
- ・ 各自のめあて達成に向けて、友達同士の関わりの充実を目指す「キラリさん」の活用。
- ・ 跳び箱運動に対する苦手意識をなくし、安心して取り組むことができる易しい場の工夫。

#### 研究協議

○感想や意見 ☆質問 ◎質問に対する回答

○見合いが活発に行われており、主体的に取り組んでいる姿が見られた。

☆タイムシフトカメラの有効性はどうか。位置に意図はあるのか。

◎タイムシフトカメラは4時間目から取り入れた。前時、本時とも使用は少なかった。



それよりも子供同士でアドバイスし合っている姿が多く見られた。「タイムシフトカメラよりも友達に見てもらいたい!」という友達と関わる有効性を子供たちは感じていた。2か所設置したタイムシフトカメラは、ステージ側には苦手な子供が活用できるように、校庭側には自分たちでどんどん活動が行える子供たち用に設置した。自分たちでタイムシフトカメラを移動して活用している姿を理想としていた。

○子供たちにどんどん跳んで欲しい先生の思いが伝わった。

○視点をもっていないと見合いも難しいが、掲示物で技のポイントをおさえていた。

☆自分のめあてに向けて意欲的に活動していた。子供たちがよく動いているからこそ先生の役割とは何か。

◎苦手な子供に積極的に関わる意識でいた。また、見合いでやりとりができていない子供にも関わり、「自分から友達にどうだったか聞きに行こう」と伝えた。見合いは後ろからではなく、横から見るよう伝えた。

○易しい場からフラットの場へのタイミングは先生の声掛けで移動を促してもいい。フラットの場から易しい場に戻っている様子があった。先生が戻るよさを伝えていたのでそのような姿が見られたのではないだろうか。

☆片付けの際に危ない場面がいくつかあった。準備片付けはどのように行ったのか。

◎準備は大きいもの(跳び箱)から出し、片付けは細かいもの(踏み切り板や調整板など)から片付けた。跳び箱を運ぶときに細かいものにつまずいて怪我のないように注意した。

## 《6年生 陸上運動 「走り高跳び」～リズムカルに High Jump!～》

授業者 由良 拓巳先生

### □教師のねらいと実態

- ・主運動につながる予備的運動「コーディネーション運動」の活用。
- ・場の工夫を促し、教師の問い返しで生まれる子供の思考。
- ・子供の目的意識や困り感を引き出し、体育が苦手な子供も得意な子供も共に記録を伸ばせる場の設定。

### 研究協議

○感想や意見 ☆質問 ◎質問に対する回答

○友達とアドバイスし合っている様子が見られた。また、友達の試技に対してつぶやいている子供もいた。

○足抜き場で、同じ場の子供たちがアドバイスを送り続けていたため、最後は足を抜くことができていた子供もいた。

☆振り上げ足の場で、足抜きができない子供がいた。新しい課題に出会った時にまず、教師が関わっていくのか。

それとも子供たち同士で関わらせるのか。

☆自分の「めあて」と「達成するために選んだ場」が合っていない子供がいた。子供たち同士で自発的に気付くようにしたかったのか。

◎数名そのような子供がいた。「跳んでみてどうだったか」見ている子供たちにも「見てみてどうだったか」と問い返し、子供たち同士の学び合いを生かしたいという思いがあった。そのため場を移動する様子が見られなかった。

○自分の試技を確かめるには GIGA 端末の活用が効果的ではないか。

○場の移動は教師から「こうしなさい」という声掛けよりも、「今のどうだった？」とオープンクエスチョンで聞くことで考えを引き出すことができるのではないか。そうすることで、子供が主役となる授業ができる。

○直線からまっすぐ助走をしている子供だけではなく、弧を描いて跳んでいる子供もいた。はさみ跳びの跳びなので直線から真っ直ぐ行う助走の方があっているのではないか。弧を描いて跳ぶ助走は中学校で行う背面跳びだと効果的。

○予備的運動のコーディネーション運動を行ったことで、本時の振り返りで「コーディネーション運動のようにもっと腕を振り上げたい」と振り返っている子供がいた。効果があったように感じた。

☆コーディネーション運動を活用してみてどうだったか。またコーディネーション運動を取り入れた意図はあるのか。

◎主運動につながる動きをさせたく今回、梶ヶ谷小学校の全学年で実施しているコーディネーション運動を取り入れた。たくさんの動きから高跳びにつながる動きを厳選した。本時で3つの動きを行った。腕を振り上げる動きは、おしりと抜き足をバーに当たらないようにするために行った。走ってジャンプする動きは、踏切のタイミングを意識できるようになってほしいと考え、取り入れた。



他にも、いくつかの予備的運動を準備していたが児童のこれまでの高跳びの活動の様子から、すでに身に付いている動きは予備的運動で行わなかった。

#### 4年生 器械運動 「跳び箱運動」

指導講評 講師：原 剛 先生（川崎市立小学校体育研究会助言者、川崎市立西梶ヶ谷小学校総括教諭）

- 「美しさ！関わり！全員！」視点がはっきりと明確に表れていた。
- 予備的運動はねらいにつながる運動になっていた。予備的運動で腰を上げて跳び乗る動きは、単元が進むにつれて助走からしてあげるとよい。跳び乗って着地から前転する動きは、着地した先に何枚か重ねたマットの上で前転をすると台上前転にもつながるようになる。
- タイムシフトカメラを活用しようと意識している子供が少なかった。助走の位置ではなく見合う位置にタイムシフトカメラを置くことで、腰の高さや足の伸びなどが分かる。そして並んでいる時に自分の姿を見ることができる。また、自分の動きを見た後に教師が「どうだった。」と声をかけてあげることが大切。
- 学習カードは単元の評価計画とリンクした形式がよい。本時だと、「友達と技を見合い伝えることができたか」についての観点で振り返りを行う。
- キラリさんのアイデアがよかった。教え合いでねらいが十分に達成していた。
- 易しい場で第一踏み切りのタイミングが合うよう、踏み切り板の前にバーのクッションを置いていたアイデアがよかった。平たい輪を踏切の前に置いて両足踏切になってしまった子供がいた。その際、先生の声掛けよりも子供同士の関わりがあるとなおよかった。場の工夫はどんどん自分たちで変えてよい。
- 不易（変わらずに大切にしてほしいこと）は技ができたかどうかの楽しさとめあて学習。流行（裁量で決められること）は様々な手立てや授業時間の使い方、できばえの明確さなど。切り返し系と回転系が終わったあとに「おかわりタイム（あと少しやりたい技）」を入れることで子供の意欲にもつながる。
- 苦手な子には補助をしてあげる。中学校の体育の指導要領には、「運動が苦手な児童の配慮」という記載がないため、小学校段階での体育学習が非常に重要。

#### 6年生 陸上運動 「走り高跳び」

指導講評 講師：青山 茂 先生（川崎市立小学校体育研究会助言者、川崎市立末長小学校教頭）

- 陸上運動の楽しみは「競走（争）」と「自己の記録達成」。目標は2学年で達成できればよい。
- 本時の評価規準（思考・判断・表現②）は規準を達成する姿が授業の中で見られた。
- 6時間という限られた時間の中で、学級全体で動きのポイントを共有する。動きのポイントを一人ひとりがしっかりと理解した上で見合うことが、「見合い（対話的な学び）」につながる。そのためには1・2時間目の学習内容をより充実させる必要がある。
- 主運動につながる運動のコオディネーション運動は、単元を通して行う有効性がある。運動を苦手とする子への手立てになっている。単元後半は、いくつか提示した動きから選んで自分に合ったコオディネーション運動を行うと、楽しみながら行えるのではないか。
- 場は「自分のめあてに挑戦してみたくなる場」と「個に応じた支援につながる易しい場」がよい。ゴムバーを使っていたので当たってもいたくない安心感があった。「あの高さに挑戦したい」「挑戦したらバーに落ちるかな」といった楽しさを味わうのに竹素材のバーを使用してもよい。（1・2か所）その際、安全面の指導を必ず行う。（支柱からはなれる、手を挙げて次の人に合図を出す。左右どちらから跳ぶかなど）残り2か所を、ゴムバーを使った場にするると個別最適な学びの場になるのではないか。
- 「リズムカルな跳び方」5～7歩の助走は最後の3歩のリズムをはやくするとよい。
- より跳び越しやすくするためには、バーと平行近くなること。そのために助走ラインに線を引く手立てもある。
- ホワイトボードを活用することによってポイントを情報共有できる。また、学びの継続性や子供の願いや思いなどを掲示することで、いつでも振り返ることができる。